

2007年12月5日(水)・6日(木)・7日(金)
AM10:00～PM 6:00 (最終日はPM5:00まで)

Press-Data : 出展者総数=280件/508小間
来場者数 12月5日(水)= 9,867名
12月6日(木)= 13,040名 (主催者発表)

<企画・編集・発行> ファッション戦略会議 JFW ジャパン・クリエーション運営委員会
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町3-4-5 TEL.03-3661-7321 http://www.japancreation.com

JFW-JC News

12.7
[fri]

いまこそジャパン・テキスタイルを!



話題のブース

大正紡「夢工房」 No.6区-56

納得し惚れ込んで発注

大正紡の「夢工房」ブースが、今回も大勢の来場者を惹きつけています。ブースは周囲が糸・わたを紹介するコーナー。真ん中が共同出展者のコーナーで、大正紡の糸を使ったテキスタイルや二次製品を企業ごとに展示し、説明しています。

実際に販売する「商品」に加え、原料から生産工程まで見ることができるため、バイヤーは実際に見て触わることで十分に理解し、納得して発注できます。原料段階からチェックできることで、安心・安全を確保できることも大きな強みです。出来上がった商品だけでなく、こうして背景や作り方、コンセプトまで紹介することが、買い付けへ「背中を一押し」する働きをしています。様々な商品を展示しているため、カットソーを入れに来たバイヤーがストールなどファッショングルメもついでにオーダーして帰ることも。

同様のことが、店頭の消費者段階でも起こると推測されます。商品力に加えて安心・安全、さらにエコロジーやモノ作りの姿勢などに納得し、惚れ込んでもらえることが消費者のショッピングを「一押し」するに違いありません。

樽井織維工業は5種類の素材の違う毛布を展示。オーガニックウール100%、インドのスピンドルとカボックとの複合、さらに毛混、シルク混、スピンドル100%。それぞれの風合いの違いを実感できます。同社は衣料用素材も好評ですが、某大手アパレルからはインテリアも商品化するからと、インテリア用素材の引き合いもあったそうです。

ビービーエーアソシエーションは糸から染め上げまで一貫で生産。独自の吊り編みで、婦人インナーを生産販売しています。今回新たに発売する自社ブランドのインナー「スープレルース」は大半が手摘みのオーガニックコットン。オーガニックというと生成りのイメージですが、植物染めでカラフルな製品にしています。「エコロジーもお洒落に」が、ポイントです。

マブチは綿では珍しいかすり染めで、1本の糸で7色に染めた「レインボー」を開発し、話題を呼んでいました。このように商品も多彩ですが、来場者も多様。高澤織物には某ブランドの外国人デザイナーが訪れ、商品に惚れ込んで発注していました。



染色業界が崩壊の危機

中国の染料価格の大幅な値上げで8月以降、染色業界に激震が走っています。日本で使用する染料や中間体は中国への依存度が高いため、メーカーの多くは江蘇省南部にある太湖周辺にあります。そのため、中国政府は排水量規制を強め、減産もしくは操業停止に追い込まれる工場が増えました。原燃料高や元高、増税還付率の引き下げなどもコスト上昇に拍

車をかけています。過去にも染料の値上げはありました。今回のように染工場がメーンで使用する染料までも対象となるのは異例。危機感を抱く染色業界は価格軒轅に努めていますが、達成率は業界全体で3~4割ほど。すでに原油高などのコストアップで益率の悪化に苦しんでいる染工場の経営をさらに困難にしています。事態を放置すれば、日本の織維産業の崩壊につながるとの懸念がもたれています。



メッセフランクフルト(香港)
トレードフェア ディレクター
ケイティ・ラム氏

JFW-JCはプロフェッショナルで、クリエイティビティに優れた見本市だと思いました。国内的に絞った展示会の印象が強いのですが、海外に紹介できる内容です。欧米のバイヤーは日本に強い関心を持っています。距離的には遠いですが、特に東京はインスピレーションを得られる街のため、JFW-JCは多くのバイヤーを惹きつけられると思います。実際に多くのデザイナーが東京を訪れていました。

テキスタイル業界はいま、厳しいグローバル競争の只中にあります。どの企業も附加価値を付ける道を必死で探しています。このため、インターフェア香港はファッションだけでなく、エコロジーや機能素材にフォーカスを当てています。もちろん、コスト競争力も大事です。

日本だけでなく欧米、さらに中国のメーカーでさえも、原油高や通貨の問題などによるコスト高に直面しています。とくに中国は今、急激なコスト高にあるわけで、問題は日本のメーカー以上といえるでしょう。(談)

12/06 [thu] JCフォーラム

「トレンドは、長く続いた高級素材志向から新技術素材へとシフト」



6日、14時から行われたフォーラムでは、資生堂のファッション・ディレクター・時田麗子氏が、「世界から見た日本のテキスタイル」をテーマに、近年のコレクションに見る素材の変遷から、今後の日本の素材の可能性までを語りました。

長らく続いたエレガントなラグジュアリーの傾向は、「06-'07秋冬までのコレクションをピークにその後メンズライクへと変化。'07春夏では、トレンドはフューチャリスティックなイメージへと大変化を迎える。その流れは今後も続くと予測。80年代ファッションの影響を受けた一枚布の造形発想の増加、フューチャー、スポーツミックスによるボリューム・シルエットの変化で、新しい素材はますます重要な要素となる。日本の技術、新素材は世界のトップデザイナーの発想の源にもなっている。トレンドの流れは日本の技術に対して追い風になっている」と指摘しました。

Schedule

本日の主なスケジュール

Forum

11:00～ 池西美知子氏「TOKYO FIBER'07 SENSWARE パリ展報告会」
14:00～ 藤岡篤子氏「産学協力によるプリント技術への思考と試作」

本日最終日は pm.5:00までとなっております。
次回開催のご来場を心よりお待ちしております。

Tex-Promotion—テキスタイルはどこまでフォルムになり得るか 「第2回 FORM PRESENTATION」のお知らせ —加工表現の拡がりを求めて—

いま、テキスタイル・トレンドの流れに視覚的な装飾効果が求められています。そこで2008年度「FORM PRESENTATION」では、プリント加工を除いた染色加工仕上げに、自由なアイデアを求めています。

例をあげますと、ムラ染め+α、シワ加工+α、顔料+αなどなどです。



アイコンに注目! 自社リスクのストック販売対応

10,000点の商品を常備、1反から対応可能

宇仁織維株 No.A区-07

薄地のことならお任せください。ポリエステル、シルク、コットン、キュプラ、トリアセなど生地から一貫で無地染め、プリント、加工ものを生産し約10,000点の商品を常備しています。コミュニケーション、サービス、スピードをモットーに、小ロット、多品種、短納期対応。1反からの即日出荷も可能です。今回のJCでも超高密度織物シリーズ、キュプラ・トリアセシリーズ、



小花プリント、小づき柄プリント、スパンシリーズ、シルクシリーズ、ビビッドカラーシリーズと豊富なラインアップを取り揃えています。『真っ青なブース』です。是非見てください。

ブースを1.5倍にし、25,000点を展示

株木馬 No.A区-01

今回はブース面積を5月展の1.5倍にし、リボン、レースとそれ以外のフレードやトリミングなどのバスマントリー類、トータルすると約25,000点の商品を展示しています。10月にパリ店をリニューアル、また新しいカタログの作成も行いましたので、厚地片面サテン、メタリック系など2,000色柄が新しく追加され、見ていただくことができます。全体としては約50,000点の商品を自社



リスクで常時ストック販売しています。色柄ともに豊富な品揃えで、ほとんどのニーズに対応することができると思いまます。ブースに訪れたバイヤーの方は10cmまでのサンプルカットが可能です。

企業紹介 ここがお薦め! 「バイヤーズ・セレクト」コーナー



瀧定大阪株 No.E区-70

東京を国際展の一つとして位置づけ

自社では日本の大手アパレルメーカーの大半が来場し、丸一日、二日かけて商談をしているという状況の中で、今回出展するというこの意味を考えた時、今後アジアのフルミール・ヴィジョンになると目標を設定したJCは、NY、パリ、上海と同じく国際展の一つとして位置づけました。日本のアパレルメーカーのために企画したものが、海外でも売れるということが、NY展やパリ展を通して確信できました。今回のレコード分析の結果得られたSENSE TECH、MELLOW、NATURE ILLUSIONの3つのテーマに分け、前対応可能な商品を取り揃えています。



株フジイテックス No.E区-63

希少な獣毛のラグジュアリーコレクション

カシミア、セーブル、ミンク、アルパカ、モヘア、キャメルなどHIGH-CLASS ANIMAL HAIRSにこだわったオリジナルのマテリアルプリントによる、高級コート地からジャケット素材までの高級素材を中心にコレクションを開催しています。



株DESIGN WORKS 1965 No.E区-15

ウェアをイメージしながら作る織物で個性豊かなコレクション

コットン、リネン、ウール、シルク素材を中心に、オリジナル企画で素材提案を行っています。お客様とのコミュニケーションを大切にし、ファブリックの完成度を追求すると同時に、「ウェアにしたとき」の視点を忘れずに物作りをしています。今回はエジプト川流域で栽培されている絹花の最高品質である、ギザ地区的エクストラコットンのみで紡績された「FINX COTTON」に注力。オーバーニングで育てられた原綿は、繊維を傷つけないように手摘みによって収穫。それによって作られた細番手の織物は、しなやか且まろく、ガーメントの美しいドレープ感を表現できることと思います。



畠岡株/吉村仙松商店 No.E区-38

世界市場への実績高い糸井の2社

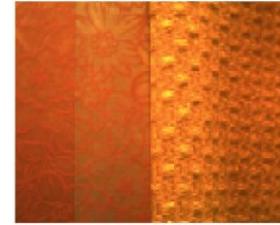
ハイエンドアパレルへの売り先が重なっていることもあり、今回は2社合同でブースを設けています。畠岡はトリアセ、シルク、綿などの高密度交織織物・機械素材の後染めを中心に関展。服になったときに引き立つ素材を目指して物づくりを行っています。吉村仙松商店は先染めが主体。特にナイロン、トリアセなどの非常に薄地の高密度素材に定評があり、ルイ・ヴィトンのメンズ商品などでも用いられています。両社ともに世界のラグジュアリー・ブランドへの商品提供を多くおこなっており、高い輸出実績があります。



株東紀織維 No.E区-21

貴重な編機で作るカットソー生地

日本で数少ない貴重な吊り編み機による生地の企画生産を行っています。糸に対してこだわりをもち、オリジナルの糸の開発も行うとともに、編地、染色、風合い、後加工におけるまでトータルな素材の完成度を目指して生地作りをしています。



ダイショーファッションテキスタイル株 No.E区-66

「どこにもない」オリジナリティ溢れる先染め

これまで一切の合同展の説明を断つてきたため、JFW-JCにも初めて出展となる産地型コンバーターです。「先染めの企画」に特に力を入れています。尾州のコンバーターとして、尾州はもちろん浜松、新潟、桐生など国内の産地を大切に考え、オリジナリティを重視したテキスタイルを提案しています。

今回のJCでは「どこにもない」と思える「実はどこにもないもの」を、得意とする先染め商品のオリジナルデザインとカラーで提案します。

◆訂正とお詫び◆

12月6日号 テキスタイルコンテスト受賞作品名に誤りがありました。

訂正とともにお詫び申し上げます。

森益一さん「JAPAN KANsei」は、正しくは「Japanese KANsei(感性)」

谷敷謙さん「ファーニーファーニーゴースト」は、正しくは「ファーニーファーニーゴースト」

次回のJFWジャパン・クリエーションは

JFWジャパン・クリエーション2009 Spring/Summer

開催日：2008年4月23日(水)・24日(木)・25日(金)

時間：10:00～18:00(最終日のみ17:00)まで

会場：東京ビッグサイト東1・2ホール